

はじめに

令和5年度、埼玉県環境科学国際センター(CESS)は「日本一暮らしやすい埼玉」に環境面から貢献しつつ、開設23周年を迎えました。そして、新たに研究職として、山上晃央(やまかみ あきお)技師、北島卓磨(きたじま たくま)技師が着任し、CESS研究員の平均年齢を若返らせ、大いにその活躍を期待するところであります。

令和4年度からスタートした5年間の研究所中期方針も道半ば、二つのセンター、三つのコア、そして四つのタスクフォースの活動が順調に進み、試験研究、国際連携、環境学習、そして情報発信においてもその活動が見える形になってきました。

試験研究成果の評価としては、気象庁長官から地球温暖化監視の観測や普及啓発に貢献したと、CESSに感謝状が贈呈され、堀井主任研究員が、日本水環境学会から技術賞を受賞されました。さらに、大原研究所長が、環境大臣から環境保全功労者として表彰され、研究推進室の大塚副室長が、全国環境研協議会関東甲信静支部から支部長表彰を受けました。CESSでの研究の蓄積と貢献が実り、高く評価されたことは関係者一同、誠に喜ばしいことでした。

また、センター職員表彰として、今年の夏の社会問題にメスを入れた植樹帯土壌等の除草剤成分調査チームの蓑毛担当部長、堀井主任研究員、竹峰専門研究員、渡辺主任専門員、落合技師、高沢技師、そして大塚副室長の7名が選ばれました。

国際連携においては、ベトナムとの地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)や、交流40周年を記念して行われた埼玉県-山西省小学生国際環境学習交流にも貢献しました。国際共同研究も東アジア酸性雨モニタリングネットワーク(EANET)のVOCsモニタリングが立ち上げられ、その傍ら、民間企業との連携を支援する社会実装化も着実に進捗しております。

環境学習は、「彩かんかん」をはじめ、生態園の整備もいち段落し、出前講座の件数も回復しつつあります。情報発信においては、彩の国環境大学基礎課程やセンター講演会もハイブリッド方式とし、全国から広く視聴していただけるようになりました。YouTubeやFacebookなどのSNSをはじめとしたホームページのアクセス件数は年間20万件を超え、新しい時代の流れに対応すべく努めています。

「日本一暮らしやすい埼玉県」を環境の面から貢献していくためには、皆様のご理解とご支援を頂けなければならないことはいまでもありません。当センターの活動について様々な視点からの率直なご意見と、ご指導、ご鞭撻を賜ることができれば幸いです。

令和6年3月

埼玉県環境科学国際センター
総長 植松 光夫